

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 210人

② 数学 210人

③ 理科 210人

#### 5 留意事項

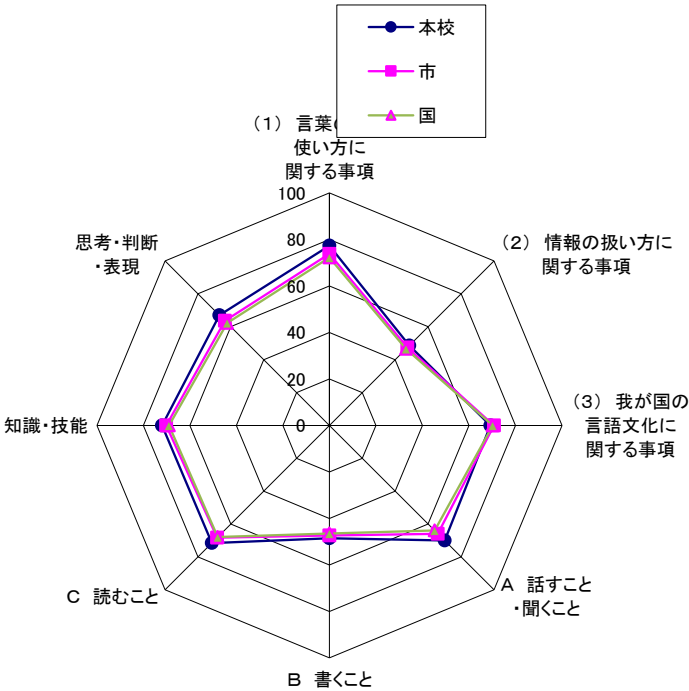
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 77.3 | 73.8 | 72.2 |
|     | (2) 情報の扱い方にに関する事項    | 48.6 | 47.3 | 46.5 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項   | 69.2 | 70.7 | 70.2 |
|     | A 話すこと・聞くこと          | 70.0 | 65.9 | 63.9 |
|     | B 書くこと               | 48.6 | 47.3 | 46.5 |
|     | C 読むこと               | 71.6 | 68.3 | 67.9 |
| 観点  | 知識・技能                | 72.0 | 70.2 | 69.0 |
|     | 思考・判断・表現             | 67.0 | 63.6 | 62.3 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度        |      |      |      |



★指導の工夫と改善

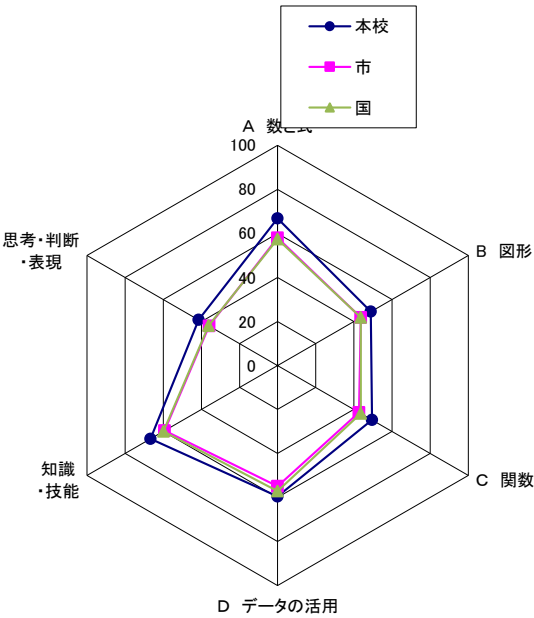
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                        |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使い方にに関する事項 | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を5.1ポイント上回っている。<br>●文脈に即して漢字を正しく書く問題では、問題によって全国平均を下回っているものがある。                                                               | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・単元ごとの、漢字テストを引き続き行うことで、読みだけでなく書き取りの力の定着を図る。<br>・語彙を調べたり、短文を作らせたりすることで語彙力を高めさせる。     |
| (2) 情報の扱い方にに関する事項    | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を2.1ポイント上回っている。<br>●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題では、全国平均を上回っているものの正答率は低い。他領域に比べて、苦手意識をもっている生徒が多い。                           | ・様々な資料から伝えたい内容を検討し、そのうえで表現させる時間を設けることで、伝えるべき内容を考慮して書き表す力を付けさせるようにする。                                            |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項   | ○漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題では、全国の平均正答率をわずかに下回ったものの正答率が89.9%と高く、日頃から読みやすい書き方を意識していることが見てとれる。<br>●行書の特徴を理解する問題では、正答率が36.1%と非常に低く、苦手意識をもっている生徒が多い。 | ・書写の授業を通して、行書など書体の特徴について触れ、身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書けるよう指導していく。                                                 |
| A 話すこと・聞くこと          | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を6.1ポイント上回っている。<br>●自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題では、無回答率が非常に高い。                                                              | ・グループでの話し合い活動を定期的に取り入れ、グループでの役割をローテーションしながら話し合い活動を行うことにより、聞く力と相手の意見を踏まえて自分の考えを述べる力を身につけられるよう指導していく。             |
| B 書くこと               | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を2.1ポイント上回っている。<br>●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題では、全国の平均正答率を上回っているものの正答率が低く課題が残る。他領域に比べて、苦手意識をもっている生徒が多い。                  | ・授業中に自分の考えを書き表す時間をできるだけ設けるようにする。<br>・文章を書く際、自分の意見とその根拠をつなぐ接続表現や文末表現を意識させる。                                      |
| C 読むこと               | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を3.7ポイント上回っており、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができている。<br>●すべての設問において、全国の平均正答率を上回っているものの、登場人物の心情の変化を捉える問題では、正答が6割程度で理解が十分とは言えない。      | ・文学作品を通して、場面ごとに情景描写や表現の特徴を捉えることで、登場人物の心情や行動の背景を読み取る力を付けさせる。<br>・説明的文章などの教材を通して、文章の展開を捉えたうえで、要旨をまとめる時間を設けるようにする。 |

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と式         | 66.8 | 58.0 | 57.4 |
|    | B 図形          | 48.9 | 43.6 | 43.6 |
|    | C 関数          | 49.5 | 42.7 | 43.6 |
|    | D データの活用      | 59.5 | 54.9 | 57.1 |
| 観点 | 知識・技能         | 66.7 | 59.3 | 59.9 |
|    | 思考・判断・表現      | 41.5 | 35.9 | 36.2 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

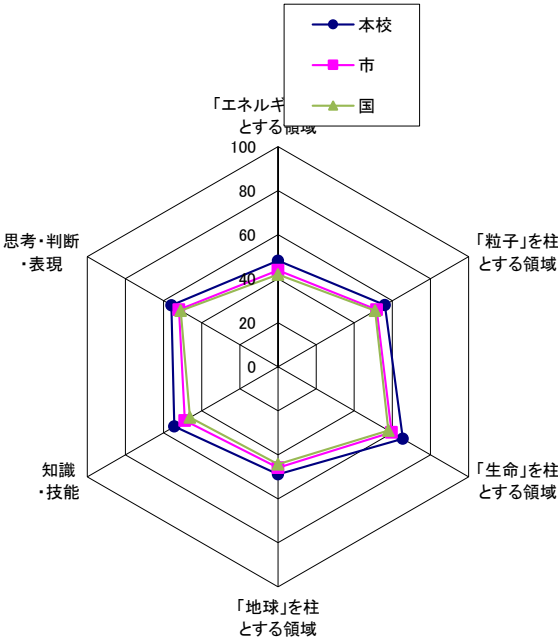
| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                    | 今後の指導の重点                                                                                                                                                       |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と式    | ○領域の正答率は、全国平均正答率を9.4ポイント上回っている。<br>○連立方程式の解き方や、文字式の代入の仕方などの基本的な技能については、十分身に付いている生徒が多い。<br>●文字式や言葉を用いて事柄の理由を示すような説明問題では、全国平均正答率を上回っているものの正答率が低い。           | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・基本的な計算技能の定着のために、継続して反復練習を行う。また、定期的に小テストを行い、生徒に自らの課題や成果を感じさせる。<br>・授業の中で言語活動を多く取り入れ、自分の考えを相手に伝える練習を継続して行っていくとともに筋道を立てて説明する力をつけていく。 |
| B 図形     | ○領域の正答率は、全国平均正答率を5.3ポイント上回っている。<br>○三角形の合同条件などの基本的な知識はしっかりと身に付いている。<br>●図形の性質が成り立つ理由を説明する問題では、全国平均を上回っているものの正答率は低く、無回答も27.4%と非常に多い。                       | ・図形の基礎・基本を見直すとともに、図形の性質を説明するための根拠に常に目を向けるよう指導していく。<br>・筋道を立てて考え証明することに苦手意識をもっている生徒が多いため、習熟度に応じて段階を追ったきめ細かな指導を行う。                                               |
| C 関数     | ○領域の正答率は、全国平均正答率を5.9ポイント上回っている。<br>○与えられた表やグラフから必要な情報を読み取ることができている。<br>●具体的事象を数学的に解釈し、式やグラフを用いて説明する問題では、全国平均を上回っているものの正答率は低い。他領域に比べて、苦手意識をもっている生徒が多い。     | ・日常生活に関わる具体的な事象についての問題解決に、関数を利用することで、その有用性を感じさせる。<br>・表、式、グラフの関連を丁寧に確認させることで、変化の様子の多角的な捉え方や活用力の向上につなげる。                                                        |
| D データの活用 | ○領域の正答率は、全国平均正答率を2.4ポイント上回っている。<br>○観察や試行によって得られる確率の意味や、箱ひげ図の分布の特徴を正しく理解できている。<br>●データの傾向を捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、全国平均正答率を6.0ポイント下回っており、正答率も38%と非常に低い。 | ・知識の習得にだけでなく活用に至るために、様々なデータを収集し、実際に分析する活動を取り入れる。<br>・授業内で言語活動を多く取り入れ、根拠を明らかにしながら自分の考えを説明する練習を継続して行っていく。                                                        |

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

| 分類 | 区分             | 本年度  |      |      |
|----|----------------|------|------|------|
|    |                | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 48.2 | 43.8 | 41.9 |
|    | 「粒子」を柱とする領域    | 56.1 | 51.8 | 50.9 |
|    | 「生命」を柱とする領域    | 65.5 | 59.6 | 57.9 |
|    | 「地球」を柱とする領域    | 48.9 | 45.9 | 44.3 |
| 観点 | 知識・技能          | 54.3 | 48.8 | 46.1 |
|    | 思考・判断・表現       | 55.9 | 51.9 | 51.0 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度  |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                    | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を6.3ポイント上回っている。<br>○静電気を調べる実験における発生条件や、対照実験時に条件設定を同じくすることについては、正答率が高く、十分理解している。<br>●太陽の光エネルギーが電気エネルギーに結びつくことや、ばねがおもりを押し返すときの作用点の位置がわからない生徒がそれぞれ7割以上いた。                                                                                   | ・エネルギーの学習において、光電池を使った実験を実際に行って、エネルギー変換の概念をしっかりと理解させる。また力の大きさや、向き、作用点の位置などを矢印を使って表す学習を、繰り返し行う。グラフのかき方については、目盛りの幅を適切にとれるような、実験の設定の仕方を身に付けるよう指導していく。                                                                           |
| 「粒子」を柱とする領域    | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を5.2ポイント上回っている。<br>○水の合成をモデルで理解することや、水の分解と水の合成の仕組みについては正答率が高く、よく理解ができています。<br>●水の合成と水の分解の仕組みのエネルギーの出入りについての理解が十分ではない。また、物質の状態変化のときの熱の出入りについての理解が不十分な生徒も多い。                                                                               | ・化学変化をモデルで理解し表現できる力を養うために、実際に分子や原子モデルの模型を使用して学習を行う。質量保存の法則については、化学変化の前後で原子の種類や数が変わらないことを、化学反応式だけでなく原子モデルを使用して理解させる。水が蒸発するとき、気化熱として熱が外に逃げていく現象を、モデル図でしっかりと理解させる。                                                             |
| 「生命」を柱とする領域    | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を7.6ポイント上回っている。<br>○生物の体のつくりが生活している環境に適合していることを自分の言葉で表現できている生徒が約8割いた。また脊椎動物の種類によって、足の骨格のつくりの共通点について理解している生徒が約7割いた。実験結果から適切な判断を答えることができる生徒が6割以上いた。<br>●昆虫の特徴の足の数が6本であることを理解できていない生徒や、対照実験を設定したとき条件が十分に設定されていない場合があることを予想できない生徒がそれぞれ約4割いた。 | ・生物の学習において、絵や画像だけでなく模型を使用したり、簡単な絵を描かせたりするような学習を取り入れる。対照実験において、不備があるとうなるか様々な角度から予想したり、考察したりする活動を日ごろの実験に取り入れる。                                                                                                                |
| 「地球」を柱とする領域    | ○領域の正答率は、全国の平均正答率を4.6ポイント上回っている。<br>○化石ができる環境や、玄武岩がどのような状況で発生するかを総合的に理解し判断できており、地層のつき方を理解し判断できている生徒が約6割いた。<br>●気圧の補正の仕方や気圧、気温、湿度、天気、天気図から雲の種類と天気図を総合的に判断する力が不十分である。また、上空と地上に湿度の違いがあることを予想できない生徒が7割以上いた。地層の柱状図の見方が苦手な生徒が多い。                                | ・気圧のしくみについて、モデル図や映像を使用したり、前線付近の雲の種類とつき方について、図や映像を使用したりして理解を図る。プレートの移動による、横方向の力により大地の変動があることや、大気に含まれている水蒸気量は場所によって異なることをモデル図を使用して理解させる。また、露頭をどの方向から見ているのか、露頭の位置はどうなっているのかなどをもとに地層の柱状図の見方を考察できるように、野外観察のようすを写真で見る機会を授業に取り入れる。 |

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っている」に肯定的回答をした生徒は75.2%で、全国平均より7.9ポイント高くなっている。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」や「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」に肯定的回答をした生徒も全国平均より高くなっている。夢や目標にむかって、あきらめずにチャレンジしている生徒が多い。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した生徒が80.0%で、全国平均より13.4ポイント上回っており、「自分には、よいところがある」や「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」も全国平均より高くなっている。全教職員で生徒を褒めて伸ばす指導に努めている成果と考えられる。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的回答をした生徒は62.3%で、全国平均を3.8ポイント上回っている。また、「平日2時間以上勉強している」と回答した生徒は46.2%、「休日2時間以上勉強している」と回答した生徒は63.3%で、平日、休日ともに全国平均より11～12ポイント高くなっている。生徒は学習意欲が高く、毎日自主学習を行うなど家庭学習の習慣が図られている。

○「読書は好き」に肯定的回答をした生徒は75.7%で、全国平均より7.5ポイント高くなっている。また、「新聞を読んでいる」と回答した生徒も、全国平均より5.8ポイント高い。朝の読書活動を継続していることや、司書教諭を中心とした積極的な呼びかけ、図書委員会のブックトークなどの活動が功を奏した結果と考えられる。

○昨年度の3年生は数学への苦手意識が課題であったが、今年度は、「数学の勉強が好き」に肯定的回答をした生徒は65.2%で、全国平均より7.1ポイント高くなっている。また、「数学の授業の内容がよくわかる」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」に肯定的回答をした生徒は8割を超え、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」に肯定的回答をした生徒は、全国平均より10.8ポイント高くなっている。

●「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面、PC、タブレットなどのICT機器を使っている」「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面、PC、タブレットなどのICT機器を使っている」に対する回答から、全国平均より使用頻度が低くなっていることがわかる。総合的な学習の時間だけでなく、学級活動や道徳などの授業でもタブレットを積極的に活用し、少数意見や発言することが苦手な生徒の意見も吸い上げるよう努めていく。

宇都宮市立星が丘中学校（第3学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                        | 取組の具体的な内容                                                                                    | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・自分の考えを進んで表出する生徒の育成<br>・ねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成 | ・各教室にホワイトボードを据え置き利用することやChromebookのJamboardの積極的な活用を推進する。<br>・授業において『本時の目標』の提示や、ねらいに即した展開をする。 | ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に対する肯定的回答が80.9%で、全国平均より4.0ポイント高くなっている。<br>・「授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文などの新しいものを創り出す活動を行っている」に対する肯定的回答が79.6%で、全国平均より12.4ポイント高くなっている。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                           | 重点的な取組               | 取組の具体的な内容                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PCやタブレットなどのICT機器を、自分で調べる活動には多く使っているが、意見交換や自分の考えをまとめることへの使用頻度が全国平均より低い。 | Chromebookの活用を幅を広げる。 | タブレット端末は、総合的な学習の時間の活動のまとめや発表などで活用しているが、今後さらに学級活動や道徳の授業の意見交換や生徒会専門委員会の活動などにも広げ、協働学習の道具としての活用を進めていく。 |